こんにちはNSTです

県立須坂病院　NSTだより
第13号（H26年　3月号）
須坂病院　NST部会（委員長熊谷信平）

日本静脈経腸栄養学術大会に参加しました

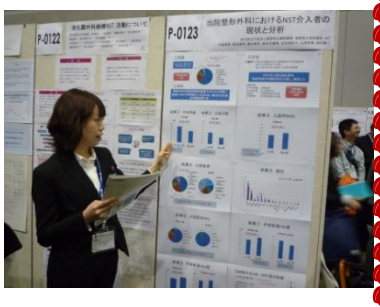
２月 27･28 日にパシフィコ横浜で開催された第 29 回日本静脈経腸栄養学術大会に参加しました。当院からも演題を２題発表しました。

演題「摂食条件表を使用した食事介助に対する介助者の意識調査」

２階病棟　摂食嚥下認定看護師　山岸里美

当院では２題演題発表し、私もそのうちの一題を当院のＮＳＴの取り組みについてポスター発表しました。座長からいくつか助言をいただいたので今後の課題とし誤嚥性肺炎の患者減少のための活動をしていきたいと思いました。また、興味深い研究が様々な病院で行われていることがわかりました。当院のＮＳＴがさらに発展していくよう力を合わせていきたいと思いました。

演題「当院整形外科における NST 介入者の特徴と分析」　栄養科　手塚清恵



静脈経腸栄養学会に参加し、ポスター発表を行いました。初めて参加して、参加人数の多さ、演題数の多さにびっくりしました。演題発表では限られた時間でまとめることが難しかったですが、貴重な経験をさせていただきました。
様々な職種の方の研究発表が聞けて、違う視点での見方や新たな取り組みなどを知りとても勉強になりました。今後の NST 活動に活かしていきたいです。

柴本さんが NST に仲間入り

今年１月から NST メンバーになった皮膚･排泄ケア認定看護師の柴本幸子さんにインタビューを行いました。

①NST の第一印象は？

毎週ランチタイムミーティングが開催されていることや､週２回の NST 回診時にカンファレンスが行われていることなどとても感心しました。

②ランチタイムミーティングに参加してみての感想は？

毎回勉強会が開催され活発な印象を受けました。

③栄養療法についてどのようなお考えをお持ちですか？

褥瘡の傷、手術後の回復においても栄養は不可欠です。また栄養は元気の源なのでとても大切だと感じております。

④今後 NST でどのようなことに取り組んでいきたいですか？

創傷治癒と栄養の関係を調べられたら良いなと感じております。

⑤柴本さんにとって NST とは？

私は食べることが大好きなので自分にとっても大切。　創傷治癒の観点から皮膚・排泄ケア分野においても大切。元気になってほしい患者にとっても大切なものと考えております。

院内研究発表会

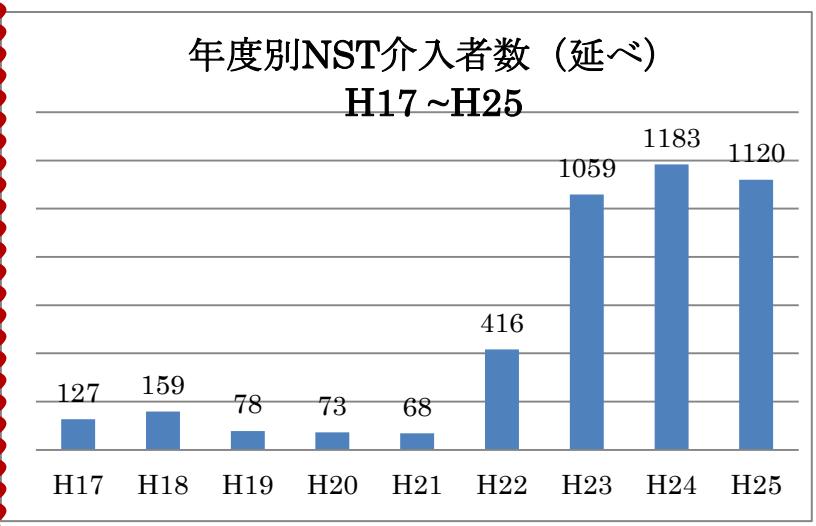
薬剤科羽毛田さんが優秀演題に！

NST から「当院整形外科における NST 介入者の特徴と分析」（栄養科　手塚清恵）、「経口摂取不可能な患者に対する栄養管理」（薬剤科　羽毛田洋平）の２題発表を行い、**薬剤科　羽毛田洋平さんの演題が優秀演題に選ばれ、全国自治体病院学会に参加することになりました!!**

１題目は当院整形外科における NST 介入者と非介入者の術前術後の栄養状態を比較した結果に基づく発表でした。当院 NST 介入の整形外科患者は術後の低栄養状態で介入することが多く、またこれらの患者においては入院前の ADL 低下、また入院時に低 Hb、低 Alb であることが多いです。従って、NST が早期に介入し、術前から栄養管理をしていく必要性があります。

２題目は当院 NST 介入者のうち、CVC 挿入（TPN 管理）患者と、PEG 造設（EN 患者）について、その生命予後を調査することにより今後の経口摂取不可能な患者に対してより適切な判断・治療が行われるための資料を提供することを目的とした発表でした。当院 NST 介入者においては TPN 管理に比べ EN 管理患者の予後が非常に良いという結果となりました。しかし、予後だけではなく患者もしくは家族の意思を尊重したり、状況に応じた対応が必要なため、今後は患者・家族への満足度調査をするなどしてさらに研究内容の質を高める必要があります。NST は今後も積極的に研究・発表を行い、医療全体に貢献していきたいと考えます。

今年度のまとめ



Ｈ２５年度の出来事	
5 月	新人学習会
7 月	病棟学習会
9 月	経腸栄養剤変更
10 月	病院祭参加
11 月	病棟学習会、信州 NST 研究会で演題発表（山岸看護師）
1 月	院内研究発表会で 2 題発表
2 月	日本静脈経腸栄養学会で 2 題発表
3 月	信州 NST 研究会で演題発表（羽毛田薬剤師）

NST 委員を振替って

北６階病棟　西山　恵子

私は北６階病棟から丸２年 NST 委員をやらせていただきました。医療チームとして医師、看護師、薬剤師、検査技師と様々な職種の方たちと連携を取りながら患者様の栄養状態改善のために学習会を行ったり回診でｱﾄﾞﾊﾞｲｽをして頂き、日々努力して参りました。感想は楽しく委員会活動ができたなということです。
栄養評価でアセスメントした低栄養患者様に焦点を当て対策を立て、実施し再アセスメントしてという繰り返しでした。患者様が良くなって快後していく姿を見ることは本当に嬉しかったです。この委員会が日々発展していきますようにお祈り申し上げます。

広報係　西山、竹下、羽毛田、手塚